

「腸チフス」ノ流行状況

## 第三節 腸「チフス」及「バラチフス」

### 一、一般状況

本年ハ、西多摩郡熊川村ノ某製絲工場寄宿舍ニ「バラチフス」十三名、板橋區二丁目ノ細民街ニ於テ水系ニ由リ腸「チフス」患者十一名同保菌者五名ノ發生アリ、又小石川區音羽町ニ於テ腸「チフス」四十四名ノ稍密集的發生アリタルノ他ニハ、殆ド密集的發生無ク極メテ平靜ニ終始シタリ、從テ年中ノ發生患者數ハ腸「チフス」二千百九十七名ニシテ昨年數ヨリ二百六名ヲ減ジ、又「バラチフス」ハ三百九十名ニシテ、兩者合計數二千五百八十七名、其ノ人口萬對患者發生率ハ三・九七、又人口萬對死亡率ハ〇・六七ニシテ管下ノ統計記錄上ニハ曾テ見ザル低下ヲ示セリ。

之ヲ全國ノ平均人口萬對患者發生率ノ五・九四、同死亡率ノ〇・九六ニ比スレバ著シキ低率ナリ、由來本邦都市ニハ通有的ニ腸「チフス」ノ發生多キニ拘ラズ、管下ニ於テ斯ノ如ク發生率着々遞減シツツアルハ、畢竟別掲ノ如ク年々豫防注射ノ普及ニ特段ノ努力ヲ拂ヒ來レル效果並牡蠣ノ取締等ニ盡瘁シタル成果ナルベシト信セラル。(第一表參照)

### 二、區郡別觀察

居住人口萬對患者發生率ニ就テ觀ルニ、本年最モ發生率ノ高カリシハ小石川區ノ七・七四ニシテ麻布

區ノ七・四〇、牛込區ノ六・九二、赤坂區ノ五・七六之ニ次ゲリ、最近五箇年平均ニ於テハ赤坂區ヲ首位トシ、本郷、麹町、牛込、小石川、四谷、麻布、芝、深川ノ順位ニシテ、舊市域ノ山手方面及之ニ接續スル西南方面ノ住宅地域ニ亘リテ、發生率高ク、工業地區ニシテ細民街多キ東京市東部及荒川沿岸地帶ニハ發生概シテ少シ。

八王子市本年ノ發生率ハ僅ニ〇・八三ニシテ、本年ハ同市及多摩三郡ハ何レモ發生極メテ少カリキ。(第二乃至第四表參照)

### 三、季節別觀察

全國ノ患者統計ニ據レバ毎年夏秋ノ候ニ著シク患者多發スルヲ例トセルモ、管下ニ於テハ夏秋季ト雖モ格別蔓延スルコトナク春季ノ發生稍低キヲ除ケバ概々各月均勢シ他ノ傳染病ニ於ケル如キ季節的弛張殆ドナシ。

尙管下ニ於テハ從前冬季ニ本病ノ發生比較的多カリシ事實アリ、此等ハ牡蠣或ハ野菜等ガ病毒ヲ媒介スルニ由因スルモノト目サレタルヲ以テ、此ノ方面ノ取締ヲ勵行シタル結果二、三年來其ノ傾向ハ失ハレ良結果ヲ收メ居レリ。(第五表並圖譜參照)

### 四、年齢及性別觀察

本病ハ十六歳乃至三十五歳位ノ青壯年期ニ最モ罹患率高キコトハ累年統計ノ示セル所ナリ、最近五

年平均ニ於テハ此ノ年齢級ノ罹患者ガ總患者者數ノ五六・七四%ヲ占ムル狀況ニアリ。

又性別ニ於テハ、常ニ女性ヨリモ男性ニ稍患者多キ傾向アリ 最近五箇年ノ割合ハ男ノ五六・二七ニ對シ女ハ四三・七三ヲ示セリ、然ルニ保菌者ニ於テハ之ニ反シテ男性ヨリモ女性ノ方多キヲ常トセリ。

尙患者ノ死亡率ヲ年齢別ニ觀察スルトキハ第六表ノ一二示スガ如ク十歳以下ノ者ノ死亡率ハ六・%ニ止マレルガ年齢ヲ倍スル毎ニ亦死亡率モ概々倍加シ居レリ。(第六表ノ一、二及圖譜參照)

### 五、患者發見方法

膽汁培養基ノ利用獎勵ヲ始メ患者ノ早期診定ニ就テハ夙ニ施設ニ宣傳ニ盡瘁シツ、アリト雖尙現ニ罹病シ居レルニ拘ラズ醫療ヲ受ケザル者アリ、或ハ屢々主治醫ヲ變ヘテ診定ヲ荏苒シ爲ニ病毒ヲ散蔓セシムル等ノ弊無シトセザルヲ以テ、機宜ニ檢病的戸口調査ヲ行ヒ又疑ハシキ死者ニ對シテハ死體検案ヲ施行シツ、アリ、是等ノ方法ニ依リ本年警察ニ於テ發見シタル患者ハ四十一名ニ及ビ總患者數ノ一・五八%ニ該レリ、而シテ醫師ノ届出ニカ、ルモノハ九八・一四%ナリ。(第七表參照)

### 六、患者診定方法

「チフス」患者ハ發病後ノ菌排泄時期比較的遲シト認メラル、ヲ以テ此ノ排菌期以前ニ診斷ヲ確定スルコトハ實ニ本病豫防ノ要訣トスル所ナリ、當廳ニ於テハ後節豫防施設ノ項ニ述ブル如ク年々「ア

ンブルル」入膣汁培養基ヲ製造シ豫メ若干數ヲ開業醫家ニ配付シ置キテ、「チフス」ニ疑ハシキ患者ヲ診察シタルトキハ速ニ之ヲ利用スルヤウ勧説シツ、アリ、本年中當廳製造ノモノ並他ノ病院等ニ於テ造レルモノヲ合シ、注意患者ヨリ血液ヲ採取シ膣汁培養ニ據リテ診斷ヲ確定シタルモノハ總患者二千五百八十七名中實ニ千六十一名ノ多數ニ及ビ其ノ他尿尿ヲ検査シテ決定シタルモノ九十名、「ゲキダール」反應ヲ參照シテ決定シタルモノ二百七十八名、結局細菌學的決定ハ總患者ノ五五・二四%ニ及ビ臨床所見ノミヲ以テ決定シタルモノハ四四・七六%ノ割合ナリ、但シ從來臨床決定ハ年次減少ノ傾向アリシニ昨年來多少逆轉ノ感アリ。（第八表參照）

## 七、患者診定ノ時期及病床経過

### 【腸チフス】

#### (イ) 発病ヨリ初診迄

本年ノ腸チフス罹患者ノ初メテ醫療ヲ受ケタル時期ヲ調査スルニ、治癒轉歸者ニアリテハ發病ヨリ第三病日迄ニ三五・八九%、發病ヨリ第七病日迄ニ六九・八六%ハ診療ヲ受ケ居リ平均初診日ハ六日二四ナリ、而シテ死亡轉歸者ノ平均初診日ハ七日二五シニテ共ニ前五年平均ニ比シ受診日ヲ早メタル傾アリ、死亡轉歸者ガ全治者ニ比シ受診時期ヲ一日遲延シ居レルコトハ必然的ニ治病成績ニ影響アルベク、且又一般的情勢トシテ受診期ヲ遅ル、モノ、内ニハ療養意ノ如クナラザル

薄幸者ヲ多數包含セルモノト省察セラル。

#### (ロ) 病名決定ノ時期

第七病日乃至第十病日ノ間ニ病名ヲ決定シタルモノ最モ多ク治癒轉歸者ノ診定日ハ平均十日五一ニシテ、第十一病日以後ニ及ビテ病名ヲ決定シタルモノ四〇・〇三%アリ、從前ニ比シ減少シタルコトハ早期診定ノ證跡トシテ慶スベキ處ナルモ、本病患者ノ菌排泄期ハ概ネ第十病日頃ナルニ鑑ミ一層ノ早期診定ヲ要望スル次第ナリ、死亡轉歸者ハ前者ニ比シ診定時期ヲ若干遲延シ居レリ。

#### (ハ) 発病ヨリ轉歸迄

治癒轉歸者ノ發病ヨリ治癒退院迄ノ経過期間ハ五十日前後ノモノ最モ多ク、本年ノ平均日數ハ五十四日七四ニシテ、死亡轉歸者ハ第十一病日乃至第三十病日ノ間ニ死亡スルモノ最モ多ク、平均二十六日一三ナリ。（以上第十四表參照）

### 【バラチフス】

「バラチフス」患者ノ發病ヨリ治癒轉歸迄ノ期間ハ腸チフスニ比シテ約十日ヲ短縮シ、本年患者ノ平均ハ四十六日六一前五年平均ハ四十三日一二ナリ、但シ死亡轉歸者ニ於テハ腸チフスト大差ナシ。

尙「バラチフス」患者ノ初診及病名診定ノ時期ハ、腸チフスニ比シテ多少早キ傾アリ。（第十五表參

## 八、死　亡　率

本年ノ腸「チフス」患者ノ死亡率ハ一八・九三%ニシテ昨年ニ比シ増騰セルモ平年ト大差ナシ、又「バラチフス」ノ死亡率ハ五・六四%ニシテ、腸「チフス」「バラチフス」合算ニ於テハ一六・九三%ナリ。療養場所別ニ就テ觀ルトキハ第十表ノ二ノ如ク、依然官立公立病院收容者ニ死亡率低ク自宅治療患者ニハ著シク高率ヲ示セリ、尙年齢別ニ於テハ前項記述ノ如ク幼年者ハ死亡率極メテ低ク、年長スルニ從ヒ著シク昂騰スルヲ常トセリ。

第十一表ノ地方別死亡率ニ就テハ「バラチフス」患者ノ含有割合ヲ一應斟酌シテ觀察スペキモノナルガ、大體ニ於テ患者發生率ノ低シトスル地方ニ死亡率高キ傾向アルハ豫防上遺憾トスル所ナリ。

## 九、其　ノ　他

患家ノ使用水ヲ調査スルニ第十二表ノ如シ。又一家ヨリ二名以上ノ患者ヲ發生シタルモノハ第十三表ノ如ク本年百四十七戸、三百五十三名ニシテ總患者ノ一三・六五%ニ該レリ。

第一表 最近十箇年患死者數及人口對比

年 次	人 口	患　者　發　生　實　數			人　口　一　萬　對　比	全　國　平　均　人　口
		腸「チフス」	「バラチフス」	計		
昭和二年	四、七一〇、〇四三	三、六六		四、三九九	一・三	六・八九
昭和三年	四、九七六、七九九	四、一五九		四、五七四	一・六	七・三
昭和四年	五、一七八、五七六	三、九三		四、三三三	一・五	六・六〇
昭和五年	五、三三、〇五〇	三、八九		四、三七	一・五	一・四〇
昭和六年	五、四九七、二九四	四、一九四		四、七七	一・五	一・三五
昭和七年	五、七五五、三〇一	三、一〇三		五、八九	一・九	一・二七
昭和八年	五、八九九、二一八	三、二五三		六・三	一・三	一・一七
昭和九年	六、〇五五、二六四	二、七一〇		六・三	一・三	一・一三
昭和十年	六、三一〇、四六六	二、四〇三		六・三	一・四	一・一〇
昭和十一年	六、五〇八、八二七	二、一九七		六・三	一・六	一・〇三

備考 本表人口ハ警察署調査ニ依ル各年末現在ナリ

















第九表 患者死亡率

七六(附)

年次	病名別	患者	死	亡	患者百二十對スル死亡率
昭和七年	「バラチフス」	三、二〇三	六〇六	四三	一八・一七
八年	「バラチフス」	三、二七三	五〇五	六七四	七・一〇
九年	「バラチフス」	二、七一〇	五六四	五八二	二〇・五九
十年	「バラチフス」	二、四〇三	三八六	四〇三	一九・〇〇
十一年	「バラチフス」	二、一九七	三九〇	五一五	六・九三
計	「バラチフス」	一三、七八六	四一六	三五	一八・七七
		二、四五一	二二	三一	一六・六八
		一五三	一五三	一五	一五・二四
		一八・七九	一八・九三	一九・〇〇	一六・七七
		六・二四	五・六四	五・五〇	一五・〇〇
		一六・八九	一六・九三	一六・九三	一六・六八

第十表ノ一 療養場所別

年次	病名別	及官 立病院	私立 病院	自 宅	計
昭和七年	「バラチフス」	二、五九〇	二、五九〇	二七	二、五九〇
八年	「バラチフス」	二、五九〇	二、五九〇	二六	二、五九〇
九年	「バラチフス」	二、五九〇	二、五九〇	二五	二、五九〇
十年	「バラチフス」	二、五九〇	二、五九〇	二四	二、五九〇
十一年	「バラチフス」	二、五九〇	二、五九〇	二三	二、五九〇
計	「バラチフス」	二、五九〇	二、五九〇	二二	二、五九〇









第十四表ノ三 腸「チフス」自發病至轉歸期間

八六(附)

病床経過日數 昭和十一年	全治者		死亡者 昭和十一年	昭和十一年 前五年平均
	實數	百分比		
一日	一〇九	一・〇九	一〇九	一・〇九
二日	一〇八	一・〇八	一〇八	一・〇八
三日	一〇七	一・〇七	一〇七	一・〇七
四日	一〇六	一・〇六	一〇六	一・〇六
五日	一〇五	一・〇五	一〇五	一・〇五
六日	一〇四	一・〇四	一〇四	一・〇四
七日	一〇三	一・〇三	一〇三	一・〇三
八日	一〇二	一・〇二	一〇二	一・〇二
九日	一〇一	一・〇一	一〇一	一・〇一
一〇日以上	一一〇	一・一〇	一一〇	一・一〇
一人平均	一一〇	一・一〇	一一〇	一・一〇

第十五表ノ一 「パラチフス」自發病至初診病期間

昭和十一年	全治者		死亡者 昭和十一年	昭和十一年 前五年平均
	實數	百分比		
五日	一〇九	一・〇九	一〇九	一・〇九
六日	一〇八	一・〇八	一〇八	一・〇八
七日	一〇七	一・〇七	一〇七	一・〇七
八日	一〇六	一・〇六	一〇六	一・〇六
九日	一〇五	一・〇五	一〇五	一・〇五
一〇日	一〇四	一・〇四	一〇四	一・〇四
一一日	一〇三	一・〇三	一〇三	一・〇三
一二日	一〇二	一・〇二	一〇二	一・〇二
二一日以上	一一〇	一・一〇	一一〇	一・一〇
一人平均	一一〇	一・一〇	一一〇	一・一〇

第十五表ノ二 「バラチフス」自發定期間

一人 平均	當年										昭和十一年		全治者	
	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	昭和十一年	前五年平均	昭和十一年	前五年平均
一人 平均	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
計	一〇・四													
實數	二二													
百分比	二・九													

第十五表ノ三 「バラチフス」自發定期間

一人 平均	病床經過日數										昭和十一年		全治者		
	一〇日以上	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	五日	昭和十一年	前五年平均	昭和十一年	前五年平均
一人 平均	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
計	一・六														
實數	二二														
百分比	二・九														